

<福島県納税貯蓄組合連合会長賞>

見守って「税金」

白河市立東中学校

3年 中島 楓

税金って一体何？納めたお金って何に使うの？そもそも、必要なの？そう思ったことがある人は少なくないだろう。

「もし税金がなかったら…」 この動画は僕が税へ関心を持つきっかけとなった。内容は、今この日本で納税のシステムが無くなったらどうなるかを、アニメで教えてくれるというものだ。税金の有無で、僕たちの生活は大きく変わってくるのだ。

そもそも税金とは、国や都道府県などが、国民が豊かで安心した暮らしができるようにするために行う、「公共サービス」のために使うお金を集めるためのシステムである。そのお金の額は57兆円を超えており、国の収入の6割弱を占めている。種類も豊富で、認知度の高い消費税をはじめ、税収のトップを占める所得税や法人税などがある。納税する場所も国税・都道府県税や市町村税の地方税などかなり異なっている。

しかし、何故そんなに多くの種類の税金があり、国の収入の過半数を占めているにも関わらず、すぐに消費されてしまうのか。それは、税金の種類が多いように、その税金の使い道も多いからだ。警察や消防隊など、普段からよく見かけるものから、社会保障費などの僕たちの目には留まりにくいものまでであるが、どれも普段の何気ない生活の中に深く関わっている。

例えば、公共事業費を使って行う道路の建設や修理・整備などがないと、道路は凸凹になり、信号は止まってしまう。もし、それが現実化したら、事故が増え、交通整備がより大変なものになる。

他にも、学校や役所などで働く公務員の給料にもなっている。税金がなくなってしまう

ったら、今僕たちが当たり前のように通っている学校は、消えてしまうかもしれない。そう考えるだけで鳥肌が立ってしまう。

このように、税金は、普段の何気ない風景や、当たり前のような生活を維持するために使われている。コンビニの消費税も、当たり前の中の生活のためだと思えば、嫌だとは思わない。むしろ、しっかり払っておかないと思ってしまうぐらいだ。税金の知識が少しあるだけで税金の見方がまるで違って来る。これは、税金以外にも同じことが言えるのではないだろうか。

最近では、情報化が発達し、自分が知りたい情報は、いつでも手に入れることができるようになった。しかし、それにより、自分の欲しい情報だけに視点がいきなり、税金のような本当に大切なものを間違った解釈のまま見送ってしまうのではないだろうか。これからは、税金のような立ち位置にいるものをしっかりと見守っていこうと思う。決して、陰で頑張っている終わってしまわぬように。見失わないように…。